

コンピュータ入門（１Ｍ）2002 年度を終えて

機械工学科 井上 清一

「今年の学生さんちょっと燃え方が悪かったなあ」と、ある年の年度末近くに授業のパートナーの一人である吉田技官に話をしたら、「いやいや、井上先生自身が燃えていませんでしたよ。」と言われてギョッとしたことがあった。小生としては何の手抜きもした覚えはなかったので最初は納得が行かなかった。しかし、その年は、教務主事の仕事が回ってきた最初の年でもあった。手抜きはなくても顔から笑顔と覇気が抜けていたかもしれないと思った。授業の準備も前年並みの域を出ていなかったようである。次年度は必死で毎回新しいプリントを準備し、授業への意気込みを表すように努力した。そして、学生さんはまた一所懸命に頑場ってくれた。コンピュータ入門は、授業パートナーとして吉田技官と水嶋技官に助けていただいているが、パートナーとはありがたいものである。時々頂く辛口のアドバイスのお陰で、道を踏み外さずにおれるし、二人からいただく新しい情報、面白いアイディアは老化の速度を確実に弱めてくれるのである。

さてこの授業の第一の目標は、「ワープロを使って科学論文が書けるようになる。」ことである。具体的には、日本語や英語の文章表現、数式表現、説明図の描画、データ表の作表、数値データを視覚化するグラフが描けるようになることである。小さなステップを着実に登ってもらうために、毎時間ごとにサブゴールを設定している。そして、たとえ未完成であっても授業の終わりにはその時間で作り上げた作品を提出してもらっている。

この授業で心がけていることは教えずに自分で見つけることである。不足する情報を見つけ出す発見こそが学習へとつながるのである。熱心さのあまり、あれもこれも教えなければと意気込みすぎると、その学ばねばならない量に、学生のやる気が負けてしまうことが多い。この授業ではその日の目標地点とそこへ行くための最小の情報だけを説明し、後は教科書を読んで前に進んでもらうことにしている。自学自習ができるようになることも大切な目標の一つである。ところで最近の学生さんは、とても理解が早い。中学校ですでにコンピュータ関連授業を受けていることや、すでに家庭にもコンピュータがあって日常的に使用していることがその理由であろう。数年後には、この授業で Word や Excel は教えられなくなるかもしれない。もっと高度なことを教えてくださいよと要求が突きつけられそうである。

もう一つの目標は「ウェブを使って情報発信ができるようになる。」ことである。今年のテーマは「わが町、わが母校」である。自分の住んでいる町や村を紹介して欲しいのである。自分の住んでいる町、自分の住んでいる県、自分の住んでいる国をいざ紹介しようという時に分かるのは、いかに自分が何も知らないかである。自分の近所に誇るべきお寺や遺跡があっても何も知らないのである。この活動を通していかに自分が何も知らなかったかに気付いて貰えればこれで目標の半分は達したことになる。さて後の半分は WEB の上で創造力を発揮してもらうことになる。自分が持っている情報を、受け手にどれだけ感動を与えながら伝えるかの工夫を考え、そして実現してもらおうということである。

日本技術者教育認定機構（JABEE）は、授業の目標として次のようなことを求めている。 使える知識の修得 自己学習能力 問題解決能力 デザイン力 の育成である。この目標実現に沿った授業を行っているとは思っているが、まだまだ道半ばである。これらを実現すべく授業のリ・デザインをもう一度試みようと思っている。